◎研究論文◎

小学校家庭科における食に関する指導の一考察

―栄養教諭との連携を観点として―

米　持　広　美
渡　邉　智　子
（別府市立石垣小学校栄養教諭）

【要旨】

本研究は、大分県の栄養教諭の家庭科授業への参画の実態を調査し、現状を把握するとともに、「内容：栄養を考えた食事」における栄養教諭参画授業の効果を明らかにし、栄養教諭の教科指導の成果と課題を概括することを目的とした。その結果、大分県の栄養教諭は、配置人数も少なく、給食管理業務と派遣による教科等の指導で激務であった。その中、教科指導として家庭科の授業計画から、授業実践まで主となり教授する姿が浮き彫りとなった。また、栄養教諭と担任による連携授業において、栄養教諭の専門性を発揮し、「給食」を題材に取り上げた授業をすることによって、「栄養」に対する知識を増やし、生活との関連性を深める思考につながっていくことが示唆された。さらに、児童の実態を理解し、栄養教諭と十分な授業打ち合わせをした授業を展開することにより、児童の学習を豊かなものにしていく可能性も示唆された。

１．はじめに

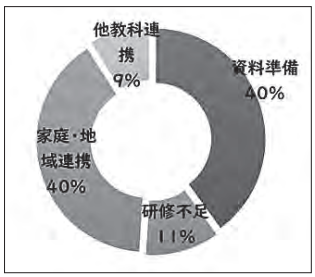
栄養教諭の教科等の指導は、平成20年学校教育法施行規則[1]の改正が行われたと同時に 小学校の学習指導要領[2]が公示されたことに始まった。その総則の中には、小学校における食育の推進について、関係教科等においてそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること、並びに食に関する指導に当たっては栄養教諭等の専門性を活かすなど教師間の連携に努めることが重要とされている。

また、『食に関する指導の手引き』[2]も平成19年に公刊され、22年の改定の後、第二次改訂版が平成31年３月に公刊された。これには、平成29年の学習指導要領[3]の改訂に伴い、食に関する資質・能力を踏まえた指導の目標が明示された。さらに、「食に関する指導に関わる全体計画」の作成の必要性を謳い、食に関する指導の内容を三体系化で示した。そして、その一つである「教科等での時間における食に関する指導」については「栄養教諭の関わり方」の具体的な役割が例示された。したがって、栄養教諭は、従来からの学校給食業務と同時に、学校における食育の推進役として、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間においてもそれぞれの特質を把握し、指導に努めることが示されている。

一方、家庭科は食育を推進する中心的教科として平成17年の食育基本法[4]第20条（ 学校、保育所における食育の推進）が制定される以前からその役割は果たしてきた。しかし、家庭科の教科学習において「より食育の充実を図るために課題となっていることは何か」と問うた、令和元年度の全国調査のまとめ[5]では、小学校家庭科指導者（学級担任68%、家庭科担任25%、その他７％）のうち「資料準備」40%、「研修不足」11％と食に関する専門性を課題にあげ

ている。【図１】

したがって、家庭科教育においても栄養教諭と連携した指導の重要性があり、学校の食育を進めていくうえでも中心教科である家庭科での栄養教諭の授業参画の意義は大きいといえる。



【図１】食育の充実にむけた家庭科指導者の課題

２．問題と目的

この研究は、小学校家庭科の授業で５年生の「栄養を考えた食事」において、教授型のつめこみ授業をする招聘された他校の栄養教諭、栄養との関連付け計画もないままに「米飯とみそ汁」の調理実習に入る担任授業に疑念をもったとこから始まった。

「内容：栄養を考えた食事」は、これまで保育所・幼稚園時代から、年齢にあわせた食育活動が行われてきていたものを土台としている。そして、小学校では学校全体で「食育」として計画的に取り組むことになっており、５年生になって、はじめて家庭科の授業に出会い、それまで漠然としていた栄養に関する知識をはっきりとさせ、栄養バランスを考えた食事を工夫しようとする態度を養う大切な「内容」である。しかし、５年生にとっては栄養素とその働き、栄養素を多く含む食品が結びにくく、困難な「内容」であり、担任教師にとっても目に見えない栄養素を具体化させるための資料準備、食品と栄養に関する専門的知識が不足しがちな「内容」である。　そこで、この「内容：栄養を考えた食事」に家庭科のT.T（テームテーチング）として、食の専門家であり、実際に学校給食に従事している栄養教諭を招聘することは大変効果的だと考える。

本研究は、大分県の栄養教諭の家庭科授業への参画の実態を調査し、現状を把握するとともに、「内容：栄養を考えた食事」における栄養教諭参画授業の効果を明らかにすることにより、栄養教諭の教科指導の成果と課題を概括することを目的とする。

３．調査の概要

（１）調査１：令和２年度栄養教諭アンケート

１）**対象**：令和２年度大分県栄養教諭52名に対し、研究依頼を行い、無記名の質問紙によるアンケート調査を行う。

２）**調査期間**：令和３年１月５日～２月28日、

３）**有効数**：30名/53　回収、回収率58%

（２）調査２：栄養教諭参画授業による児童の「栄養」に対する意識変化の調査

１）**対象及び分析法**：

（A）栄養教諭所属校５年１クラス38名

（B）栄養教諭派遣校５年１クラス33名

・（A）、（B）ともに、担任と栄養教諭のT.T授業において、授業前・後の児童に「栄養はとれていますか」の質問に対する自由記述を依頼した。

・分析は客観的、かつ全体的な傾向を見るためにKHCoderを用いてテキストマイニングにより実施した。

２）**単元**：５年家庭科「食べて元気に、開隆堂」

３）**小単元**：「食べて元気なるひみつを考えよう」

・授業に関しては、市教育委員会に研究依頼と栄養教諭の派遣依頼し、指導計画は渡邉・米持で作成した。

４）**期日**：（A）令和３年11月22日・29日

（B）令和３年11月22日・26日

４．結果と考察

（１）**調査１：令和２年度栄養教諭アンケート**

１）令和２年度大分県　栄養教諭の配置と業務の実態

大分県のR２栄養教諭は52名であり、全国に

は6,652名の栄養教諭の配置があるのに対し、大変少ない（文部科学省初等中等教育教局健康教育・食育課　R2,5,1）。

また、52名の配置校を見てみると給食センター・共同調理場の配置が30名、県立支援学校の配置が５名、児童、生徒の近くにいて学校の食育を推進している市町村立の小中学校配置の栄養教諭（以下、自校栄養教諭とする）が12名であった。【図２】

【図２】R2大分県栄養教諭配置校

栄養教諭に現在の業務の仕事量を割合で示してもらうと、【表１】のように「給食管理業務」が半数以上であり、児童・生徒に直接的、間接的に関わる「食に関する指導」は35%であった。

【表１】栄養教諭の業務としての仕事量の割合

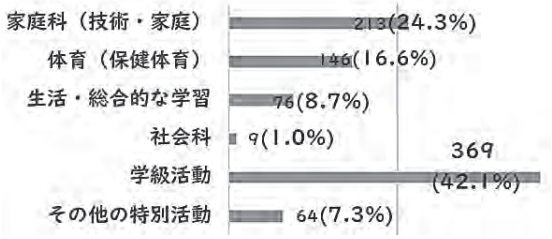
栄養教諭の業務内容	割合度数	%
給食管理業務 献立作成、調理、栄養管理、会計、衛生管理、物資調達、設備保守　など	150	54%
食に関する指導 教科等の指導､給食活動の指導（給食委員会、食育だより発行）、個別な相談指導　など	99	35%
委員会活動 給食運営委員会、学校保健委員会、食育推進委員会、PTAの委員会　など	23	8％
その他 生活指導、クラブ活動、など	8	3％

２）栄養教諭が教科等の指導家庭科授業に関わる実態

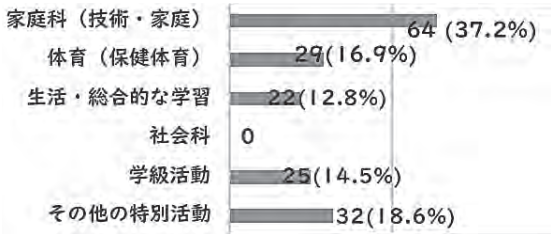
栄養教諭が教科等の指導で授業に参画するのは小学校86%、中学校14%と小学校での授業回数が多い。これは、大分県では県立支援学校を除く中学校は、センター方式給食であるため、自校栄養教諭は小学校配置であることが要因であろう。また、多くの中学校には家庭科専任教員が配置されており、その多くは学校の食育担当を担っている場合が多いのではないかと考える。

栄養教諭がR２年度に行った教科等の指導では､小学校:学級活動（42.1％）､家庭科（24,3％）、中学校：家庭科（37.2％）、特別活動（18,6％）であった。栄養教諭にとって食育の中心教科として家庭科での連携授業が多いといえる。

【図３、４】



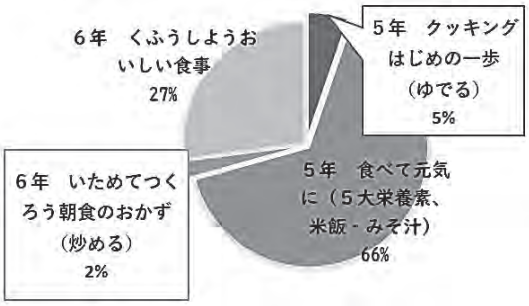
【図3】小学校における栄養教諭参画教科



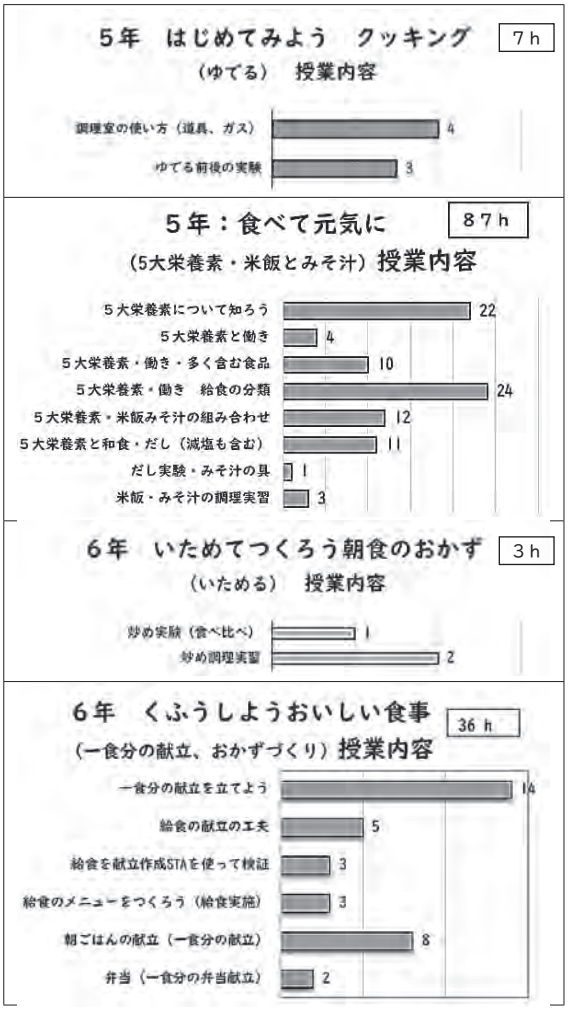
【図４】中学校における栄養教諭参画教科

３）栄養教諭による小学校家庭科参画授業の実態

小学校「内容：栄養を考えた食事」に関わる４単元について、授業時間数と授業内容を調査した結果、５年生の５大栄養素について83h、６年生の一食分の献立学習24hであり、栄養教諭の専門性を求められている家庭科における内容だといえる。【図５】【図６】

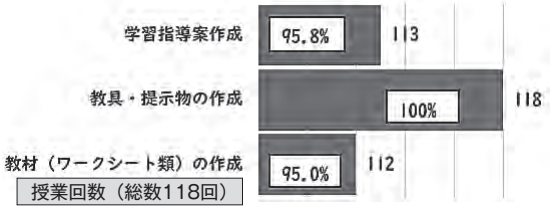


【図5】小学校家庭科における栄養教諭参画　単元別

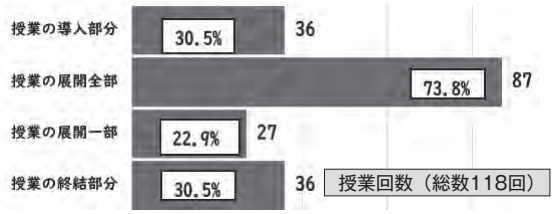


【図６】栄養教諭による小学校家庭科における「内容：栄養を考えた食事」に関わる授業内容

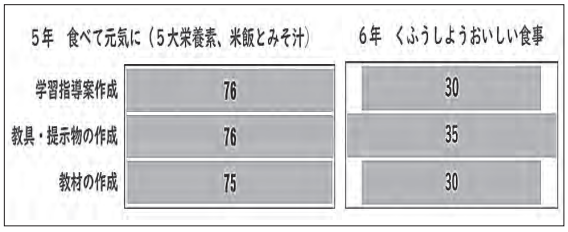
しかしながら、栄養教諭の家庭科授業準備【図７】、授業参画形態【図８】から、栄養教諭の家庭科授業参画は、T・T授業ではなく、ほぼ、栄養教諭が授業を行っていることが分かる。特に参画の多い「５年：食べて元気に」「６年：くふうしようおいしい食事」において、栄養教諭が学習指導案、教材（ワークシート）・教具の作成までおこない、授業展開も栄養教諭が連携ではなく一人で行う頻度が高い。【図9】【図10】



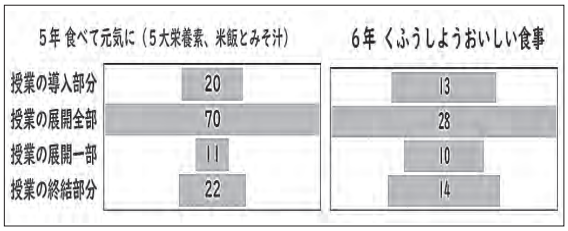
【図7】小学校家庭科における栄養教諭の授業準備（回）



【図８】小学校家庭科における栄養教諭の授業参画形態(回)



【図９】栄養教諭の授業準備（５年食べて元気に 総回数76回）
（６年くふうしようおいしい食事総回数36回）



【図10】栄養教諭の授業形態（５年食べて元気に　総回数76回）
（６年くふうしようおいしい食事　総回数36回）

４）栄養教諭の教科等の指導に関する悩み

栄養教諭は、業務が多岐にわたっており、教科等の指導の時間づくりに苦慮していることが分かる。また、他校での指導などでは、打ち合わせの時間を作れず、結局、栄養教諭が児童の実態もわからないままＴ１として主で授業をしてようだ。さらに、発問や指示、授業課題づくりなど教育技術に不安を抱えているケースもあるようだ。

【表２】栄養教諭の教科等の指導に関する悩み

〈主な悩みを抜粋〉

- 学校にいる時間が少なく、**給食業務が多く**教科指導に入りにくい
- コロナで**授業依頼が少ない**。自分の働き掛けも不足しているが、**栄養教諭が忙しそうに見えるらしく**頼みにくいかも
- 担任の先生に**声を掛けるタイミングが難しい**。**授業依頼が同じ日**に重なる
- 高学年のスケジュールの多さで、計画通りに実施できないこともある

・コロナ禍で調理実習や食育分野が少なかった
・年に１度の指導でセンター勤務のため、**子どもの実態把握**が難しい
・複数校の担当なので、児童の実態がつかめないまま授業をしている
・他校での指導の場合の**打ち合わせの時間**が欲しい
・複数の学校に行くので打ち合わせの時間が取れない。**事後の指導**に関われないので**定着が見えない**
・小学校は家庭科専科がいないので**すべてを栄養教諭がやることが多い**
・**相談する相手**がいない
・こちらが提案した指導案がその**教科の狙いや児童の実態に合っているのか**悩ましい
・**「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」**を１時間に入れ込むのが**難しい**
・**指導内容の精選**に悩む
・学校との打ち合わせが難しく、**つい全部やってしまう形**が多い
・指導したことがない分野を指導するためには**準備が大変**
・**業務負担軽減**をするためにも**ICTの活用**をしたい
・**１時間で授業を完結**させないといけないところ
・教材を１から準備しなければならない
・他の先生の授業を見る**研修機会がなく**学べない。
・生徒に説明する場面はいいが、生徒に指示して作業をさせる場面での**指示の仕方**に自信がなく、生徒にうまく作業をさせられずに失敗することがあった、どう指示をすればよいのか勉強していきたい

（２）調査２：栄養教諭参画授業による児童の「栄養」に対する意識変化の調査

１）５年家庭科「食べて元気に、開隆堂」における学習指導計画

学習指導計画は、単元「食べて元気に　全10時間」を１次「食べて元気になるひみつを考えよう（２時間）」とし、Ｔ１（担任）、Ｔ２（栄養教諭）に分けて指導計画を作成した。

【表３】単元「食べて元気に」学習指導案

指導計画　全10時間

１次「食べて元気になるひみつを考えよう」

１・２時間め　本時案

5，本時案

（１次）　食べて元気になるひみつを考えよう　（2時間）

①主眼(1/2)

○5大栄養素をとることの大切さと、栄養素の働きや多く含む食品を知ることによって、栄養があるものをとることの大切さを理解することができる。

【食育の視点】食事の重要性・心身の健康

②展開

学習内容	時間	学習活動	指導上の留意点 T1（担任）	指導上の留意点 T2（栄養教諭）	評価
○日常の生活を振り返る	15	1，なぜ食べるのかを考える	○日頃の食生活を思い起こさせ、食べることの必要性を考えさせる。 ・なぜ人は食べ物をたべるのかな？（・生きるため　・おなかがすくから　・元気になったため　・成長するため） ○今日食べてきた朝食の内容を問いかける ・先生の朝食（シュークリーム・コーラ）を提示し、感じたことを発表させる（・おやつ・つまみ　・おかずや野菜がない・栄養のバランスが悪い　・赤・黄・緑の色彩になっていないなるため　・成長するため） ・このような朝食を続けるとどうなるだろうか問い、栄養教諭の話をもとに課題を提示する。	・病気になったり、虫歯になったり、元気ではない状態になることを伝える	
○課題の確認			課題・元気になるためにはどんな食事をすればいいのだろうか		
			○元気になるための食事を予想させる。 （・おかずや野菜を食べる　・好き嫌いなく何でもたべる　・栄養のあるものを食べる　・赤・黄・緑のものを食べる　・カルシウム、メンバク質などが入っている栄養素の名前）		
○課題の解決	10	2，栄養の意味を知る	・「栄養の意味を教えてもらおう」とT2につなげる。 ・知っている栄養素の名前をあげさせ、「詳しく栄養素の働きについて教えてもらおう」とT2につなぐ。 （・タンパク質　・脂質・カルシウム・ビタミン　・ブドウ糖　・ミネラル　・炭水化物　など）	○「栄養」の意味を食べ物のゆくえの絵を提示しとらえさせる。 ・食べ物が消化され栄養素になること ・人間が活動・成長し生きていくためには栄養素が必要であること ○5大栄養素の種類と働きを5レンジャーのキャラクターを使いながら説明する ・3つ（赤・黄・緑）の働き　エネルギー・体構成・調子を整える	「栄養」の意味がわかったか
○まとめ	20	3，5大栄養素の働きと食品について知る	○食品を主に含まれる栄養素で3つの働き・5大栄養素に分類させる。 ・学習プリント ・食品カード	○それぞれの栄養素を多く含む食品群を説明する。 ・食べ物のゆくえのイラストを活用しながら栄養素は食品からとることを確認する。 ・答え合わせと同時に5大栄養素と働きを確認する。	5大栄養素とその働きが分かったか

①主眼(2/2)

○食品の3つのグループがそろうと栄養バランスがよくなるということを、身近な給食に使われている食品をグループ分けすることによって理解し、生活に生かそうとする意欲を持たせる。

【食育の視点】食事の重要性・心身の健康

②展開

学習内容	時間	学習活動	指導上の留意点 T1（担任）	指導上の留意点 T2（栄養教諭）	評価
○前時の振り返り	10	1，前時の確認をする	○先生の朝ごはん（米飯）を示し、栄養素を取るだけでよいのか問う （・炭水化物だけではエネルギーになるだけ　・栄養バランスが悪い　・おかずを食べないと3つのグループに入らない）	○前時の確認をする ・5大栄養素とそれを多く含む食品（食品にはいろいろな栄養素が含まれているが、主な栄養素で分類すること） ・栄養素の主な働き（5レンジャーと3つの家で分類できることを視覚とらえさせる）	
○課題の把握	15	2，給食の食品を3つのグループにわける。	○給食で栄養素について気を付けていることを T2 聞いてみようと呼びかける。 ○みんなで給食の食品を分類し、確認してみようと問いかけ、分類させる。 ・ワークシート ・個人で分類した後、交流させる。 ○分類して気づいたことを発表させる。 （・給食は5大栄養素「3つのグループ」がそろっている。　・給食にはたくさんの食品が使われている。）	・3つのグループにバランスよく食品が入るようにしていることを告げる ・給食の食品カード ○正確に分類できているか巡視する	食品を分類できたか
○学習のまとめ	10		○3つの食品のグループを組み合わせると栄養バランスがよくなることを押さえ、まとめをする。 （まとめ：3つの食品グループ（五大栄養素）がそろうように、いろいろな食品を組み合わせて食べるとよい。）		
○学習の振り返り	10		○先生の朝ごはんを元気になる朝ごはんにする方法を考えさせる ・おかずを考えた例を発表させる ・みそ汁の実を考えた例を発表させる ○学習プリントに振り返りをさせる。 ・自分の食事に活かしていきたいことを発表させる	・学習プリントに先生の朝食へのアドバイスを書かせる。 ・発表に対して栄養バランスの賞賛のコメントをする。	自分の食事に活かしたいことを書けたか

5，指導計画及び評価計画

単元名　食べて元気になるごはんとみそ汁　【全10時間】

(1) 食べて元気になるひみつを考えよう

(2) 食べて元気になるごはんとみそ汁をつくろう

(3) 家族に元気になるみそ汁をつくってあげよう

小題材	時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食べて元気になるひみつを考えよう	2時間	○食事の役割と日常の食事の大切さについて理解することができる。 ○5大栄養素をとることの大切さと、栄養素の働や多く含む食品を知ることによって栄養バランスのよい日常食をとることの大切さを理解することができる。 ・食事の役割 ・5大栄養素と3つの働き ・先生が元気になる朝ごはん（ごはん、みそ汁の実）	(1)(2)(3) ・学習プリント ・ッペーパーテスト		
食べて元気になるごはんとみそ汁をつくろう	6時間	○ご飯とみそ汁の調理の仕方について、おいしく食べるための課題を設定することができる。 ○日本の伝統食である米飯の調理について理解し、適切に炊飯ができる。 ○日本の伝統食であるみそ汁の調理について適切に調理することができる。 ・課題設定 ・ごはん・みそ汁の調理実験・調理実習	(4)(5) 学習プリント 行動観察	(1)(2) 学習プリント 行動観察	
家族に元気になるみそ汁をつくってあげよう	2時間	○家族が元気になる（栄養バランスが良い）みそ汁の調理計画を考えることができる。 【家庭実践】 ○元気になるみそ汁づくりの新たな課題をまとめ、生活を工夫・改善についてまとめることができる。 ・元気になるみそ汁の計画 （栄養素分類、実の選択、実の切り方・加熱の方法） ・実践の発表 ・新たな課題づくり	(1)(2)(3) 学習プリント	② 調理計画	(1) ・学習プリント ・行動観察 ② 学習プリント

2）小単元「食べて元気になるひみつを考えよう」の授業実践

・（A）栄養教諭所属校５年１クラス：自校栄養教諭、（B）栄養教諭派遣校５年１クラスとし、同じ栄養教諭が、同じ教材・教具を使用し、共に担任教諭と打ち合わせを行った後、指導案に沿って連携授業を行った。

・（A）、（B）ともに、授業前・後の児童に『栄養はとれていますか』の自分の生活の振り返り質問に対する無記名の自由記述とした。

3）頻出言の抽出

名詞、動詞、形容詞の抽出において、分析対象となった文・抽出言を授業前・後に分けて【表４】に示し、その出現頻度の多い単語を授業前【表５】、授業後【表６】に示す。

【表４】分析対象の文、単語

(A) 栄養教諭自校	文	総抽出語	(B) 派遣校	文	総抽出語
授業前	84	886	授業前	72	761
授業後	100	1,244	授業後	88	1,021

・連携授業後の児童の知識の高まり

栄養教諭の自校である（A）と派遣校で（B）での『栄養はとれていますか』の文言に対し、いずれも授業後の方が、文の数、抽出語総数ともに増えている【表４】。５年生にとって「栄養」が漠然としたものであったのに対し、授業の効果の１つとして抽出語が増加し、「栄養」を具体的につかんできているといえる。　しかし、抽出語数を児童数１人当たりでみてみると、（A栄養教諭自校）授業前：23.3語・授業後：32.7語、（B派遣校）授業前：23.1語・授業後30.9語とA、Bに大きな差異は見られなかった。

・児童の「栄養」に対する授業後の意識の変化

（A）（B）合わせて授業前には、「好き嫌い：17」「嫌い：15」「好き：６」と、栄養が摂れているのかを、自分の好き嫌いがあるか・無いかで、捉えているようだ【表５】。

【表５】（A栄養教諭自校）、（B派遣校）における授業前　頻出語及び出現回数（２回以上）

A栄養教諭自校　授業前			B栄養教諭派遣校　授業前		
順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	栄養	40	1	栄養	37
2	食べる	34	2	食べる	25
3	野菜	21	3	野菜	16
4	好き嫌い	14	4	思う	15
5	思う	10	5	嫌い	6
6	嫌い	9	6	肉	5
7	肉	5	7	好き嫌い	3
8	ご飯	4	7	バランス	3
8	好き	4	7	魚	3
8	残す	4	10	給食	2
8	苦手	4	10	苦手	2
8	理由	4	10	口	2
8	お母さん	2	10	好き	2
8	家	2	10	考える	2
13	結構	2	10	残す	2
13	考える	2	10	摂れる	2
13	脂身	2	10	汁	2
13	摂れる	2	10	食べ物	2
13	食べ物	2	10	たぶん	2
13	多い	2	10	入れる	2
13	大きい	2	10	毎日	2
			10	夜	2
			10	理由	2

【表６】（A栄養教諭自校）、（B派遣校）における授業後　頻出語及び出現回数（２回以上）

A栄養教諭自校　授業後			B栄養教諭派遣校　授業後		
順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	栄養	44	1	栄養	44
2	食べる	33	2	栄養素	24
3	思う	22	3	思う	18
4	給食	14	4	食べる	11
5	栄養素	12	4	入る	11
6	入る	11	6	勉強	10
7	ビタミン	9	7	食事	8
8	バランス	7	7	毎日	8
8	作る	7	9	バランス	7
8	朝	7	9	パン	7
11	ごはん	6	9	ビタミン	7
11	残す	6	12	授業	5
11	先生	6	12	先生	5
11	多い	6	14	全部	4
11	野菜	6	14	家	4
16	５つ	5	14	炭水化物	4
16	好き嫌い	5	14	朝	4
16	全部	5	14	付ける	4
16	毎日	5	19	お母さん	3
20	お母さん	4	19	ご飯	3
20	牛乳	4	19	タンパク質	3
20	朝	4	19	給食	3
20	肉	4	19	考える	3
20	理由	4	19	偏る	3
25	タンパク質	3	19	野菜	3
25	飲む	3	19	理由	3
25	考える	3	19	良い	3
25	少ない	3	27	５つ　お菓子	2
25	太る	3		みそ汁　キウイ	
25	炭水化物	3		コーヒー　サラダ	
25	分かる	3		ベーコン　りんご	
32	お菓子 お腹 甘い	2	37	果物	
	ジャガイモ りんご			確かめる　確認	
	ポテトチップス				
42	気 好き 私 脂質 心				

また、授業後では、授業前には全く出現しなかった『栄養素：36』、『ビタミン：16』、『炭水化物：７』、『タンパク質：６』と栄養素名をあげている。また、授業で不足している栄養素に食品を入れる活動をしたため、『バランス：14』と５大栄養素のバランスで栄養が摂れているかを判断しているようだ【表６】。

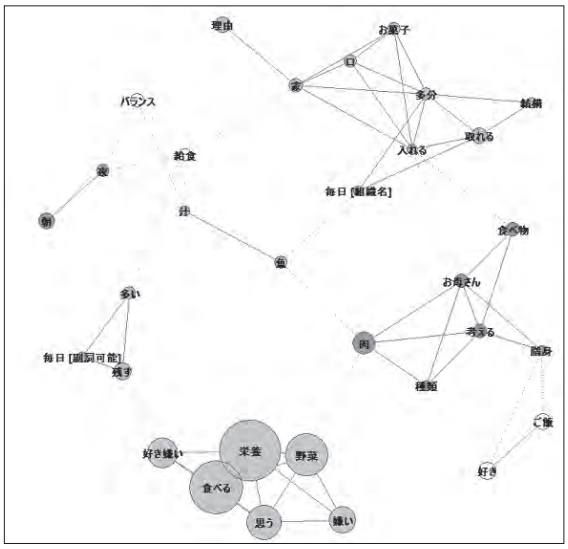
さらに、授業前の『野菜：37』は文を見ていくと「野菜が嫌い」、『肉：10』は「肉が好き・嫌い」がほとんどである。それに対し、授業後は『野菜：９』が「もっと野菜を食べたい」や「野菜を食べていないからビタミンがとれていない」など、栄養素や栄養素を多く含む食品を学習したことにより、自分の生活を振り返ったり、これからの生活を考えたりするようになっている。同様に、授業前は抽出語のうち食品名が13であったのに対し、授業後は32に増えており、具体的な食品名をあげて栄養バランスをとるための食生活を考えている児童が増えている。

・（A栄養教諭自校）と（B派遣校）の違い

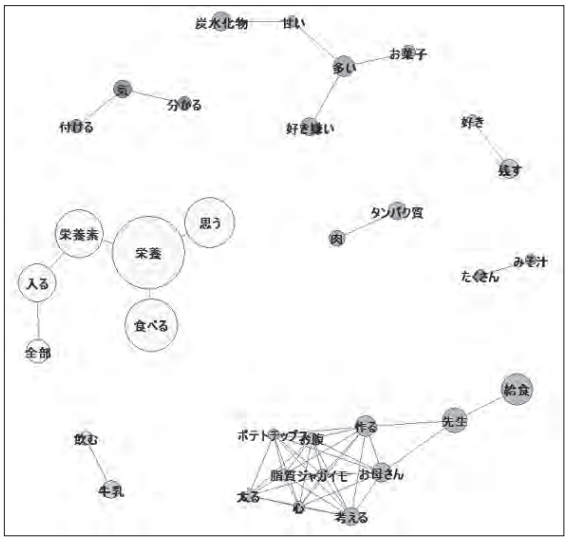
授業前には『給食：２』が（B）に出てくるが、「給食が好き」「給食を残さず食べる」というものであった。授業後の（A）『給食:14』は、ほぼ『給食の先生：10』と結びついており、自校の栄養教諭を指している。そして、『給食』に関する記述は、「毎日、給食の先生が栄養を考えてくれている：10」や「給食は５大栄養素が全部入っている:４」に大別できた。これに対し、授業後の（B）『給食:３』は,給食を例に出し（A）と同様の活動をしたのだが、「給食を残す：２」、「給食は栄養がたくさん入っている：１」であり、出現数が少ない。これだけでは、児童の実態を理解している自校の栄養教諭の参画した授業の方が良いとは言えないが、（A）は「身近な給食の先生」が専門の授業をしてくれるところに「給食」と「栄養」が結びつき、「栄養」に対しての関心を高めることができているのではないかと推察する。

４）共起関係の探索

（A）（B）合わせて、授業前と授業後それぞれにおいて、抽出された頻出語上位40語の共起関係を探った。【図11】【図12】



【図11】授業前の共起ネットワーク（A）（B）



【図12】授業後の共起ネットワーク（A）（B）

授業前【図11】は「栄養」と「好き嫌い」の結びつき、授業後【図12】は「栄養」と「栄養素」の結びつきが強いことは、**３）頻出語の抽出**の項で述べたところである。加えて、授業後において「甘い・菓子・炭水化物・多い」「肉・タンパク質（少ない）」「ポテトチップス・ジャガイモ・脂質・太る」など食品と栄養を考えた結びつきや「給食の先生･お母さん（が栄養を）考えて作る（感謝）」「牛乳・（もっと）飲む」

など生活を振り返ったり、これからの生活を考える結びつきが見られた。さらに「みそ汁・たくさん（の実を入れる）」など、この単元『米飯とみそ汁の調理』の目標の一つである食品をたすことによって栄養バランスをとることのできる「みそ汁」のよさを示す記述があった。

５．まとめ

調査１より、大分県の栄養教諭は、配置人数も少なく、給食管理業務と派遣による教科等の指導で激務であった。その中、教科指導として家庭科の「内容：栄養を考えた食事」において授業参画し、打ち合わせもままならないまま、授業計画から、授業実践まで主となり教授する姿が浮き彫りとなった。

調査２では、栄養教諭と担任による連携授業において、栄養教諭の専門性を発揮し、「給食」を題材に取り上げた授業をすることによって、「栄養」に対する知識を増やしと生活との関連性を深める思考につながっていくことが示唆された。さらに、児童の実態を理解し、十分な授業打ち合わせをした授業を展開することにより、家庭科の目標である、児童が食生活を振り返り、これからの生活を考え、食生活を工夫していく授業に繋がっていくと考えられる。密な連携が児童の学習を豊かなものにしていく可能性が示唆された。

今後の課題として、①栄養教諭の教科等の指導において、専門性を発揮するために、栄養教諭の配置数を増やし、児童の実態把握や担任と直結できる自校栄養教諭の増を県教委に求めていくこと。②連携授業においては、栄養教諭が主導ではなく、指導内容の棲み分けをした指導計画を担任教諭がたて、密な情報交換の後、栄養教諭の専門性を十分に活かした授業展開にしていくことが大切だと考える。また、栄養教諭も「内容：栄養を考えた食事」の４つの単元の教材・教具の研修を進め、共同で使えるようにスライドなどの教具バンクづくり等が構築できるとよいのではないかと考える。さらに、③学校の「食育推進」のための「食に関する全体計画」において、様々な教職員相互の連携や地域・家庭との連携が日常的に行われていることも家庭科の目標である「生活を工夫させていく」という点では重要である。

引用文献

１）文部科学省；学校教育施行規則、文部科学省令３号、2008.3

２）文部科学省；食に関する指導の手引き、2019.3 平成31年３月

３）文部科学省；小学校学習指導要領解説・総則編、2008.8

４）内閣府；食育基本法、2005.6

５）全国小学校家庭科教育研究会:全国調査のまとめNo56、食育の充実に向けた課題、第56回全国大会、項29